

整備戦略

オートリペア&メンテナンス 月刊

カーアフターマーケットを切り拓く情報・技術マガジン



December 2017

12

特集1

保険は コミュニケーション ツール

特集2

磨いた技術がここに輝く —第21回全日本自動車整備技能競技大会—

FRONT
FACE

軽自動車検査協会 理事長

清谷伸吾氏

ガラス施工事業者の苦悩(上)

「フロントガラスの交換時に『エーミングまでを終えてから納めてほしい』と言われた」。あるガラス施工事業者がディーラーのフロント担当者から最近になって言われた言葉だ。先進安全技術が正しく作動するためにエーミングは必須。しかし、エーミング作業に欠かせないスキャンツール（外部故障診断機）を保有していないガラス施工事業者は少なくない。一部のスキャンツールメーカーでは、事業者向けに研修などを開始したケースも出始めており対応に迫られている。



田中社長は「エーミングは特別な作業ではない」と強調する

先進安全技術搭載車が増えたことで注意点が増加

「トヨタの50型『プリウス』のフォワードレコグニションカメラの取り扱いには注意」「50型プリウスはトヨタ純正品以外のワイパーブレードは装着してはいけない」「スバル『レヴォーグ』のアイサイト装着モデルは必ずステレオカメラを外してからフロントガラスを外す」。ガラス事業者が

集まる場所での情報交換の一部だ。「初めて聞く話もあった」と話すガラス施工事業者もおり、必死にメモを取る姿も見られた。

独自にエーミングを学ぶ事業者も

一方で、エーミングをビジネスにしている事業者もいる。カーグラス・JP（田中聡社長、さいたま市北区）だ。「昨夏ごろからガラス交換ビジネスを増やすためにエーミングの勉強を始めた」（田中社長）という同社。当初は月に1台程度だった作業だが、先進安全技術を搭載した車両の増加とともにエーミングのニーズも高まった。エーミングを始めると、うわさがうわさを呼び「取引先のレンタカー会社などから『エーミングできるの?』と聞かれるようになった」という。それから徐々に台数が増加。今年9月には20台ほどの車両に対してエーミング作業を行った。いまではガラス交換とエーミングはセットで作業することを推奨している。

課題は人材育成やスキャンツールの選定

田中社長はガラス施工事業者がエーミング作業を行ううえで乗り越える壁として「環境づくりの難しさ」

を挙げる。たとえば、人材育成やスキャンツールの選定も環境づくりの一つと指摘する。

同社では山本樹治マネージャーが整備書を読むなどして情報を収集。スキャンツールメーカーの協力も得ながら作業に必要な手順などを学んだ。山本マネージャーは「きっちりやったつもりでもエラーが出て学習されなかったり、どこがずれているのか分からないことがありで、最初は5時間くらいかかった」と振り返る。ただ、台数を重ねるうちに手順も身に付き、慣れたことで最近はスムーズに作業できるようになったという。工賃は車種によって作業手順などが違うため、2〜4・5時間の範囲の工数で判断して算出する。

田中社長は「ガラス屋としてエーミングは避けて通れない。安心安全、信頼性を打ち出す以上、ガラス屋はエーミングに対応するべき」と強調する。

（太田 千恵）



山本マネージャー